

二〇二四年度 学校推薦型選抜

経済情報学部経済情報学科 一般推薦

小論文 問題冊子（解答時間 六〇分）

### 注意事項

- 一 監督者の指示があるまでは、配布された問題用紙、解答用紙を開いてはいけません。
- 二 試験開始後、問題用紙および解答用紙がそろっているか確かめよ。  
問題用紙（この表紙を含め 五 枚）  
解答用紙（二 枚）  
もし足りない場合は、監督者に知らせること。
- 三 解答用紙の受験番号記入欄に、もれなく受験番号を記入すること。
- 四 解答は、**縦書き**で記入すること。
- 五 解答用紙のみを提出し、配布された問題用紙は持ち帰ること。

問題 次の文章を読んで、次の問題に答えなさい。

《原文の二次使用の許諾が得られなかったため、非掲載》



(出典 アンデシュ・ハンセン著／久山葉子訳  
『スマホ脳』新潮社 二〇二一年 一部改変して出題)

問一 棒線部①にあるように、筆者がスマートフォンを遠ざけることが困難な理由を、不確かな結果への偏愛というキーワードを用いて、百十字以内で説明しなさい。

問二 この問題文は『スマホ脳』と題された著作から一部改変して出題しているが、問題文に対してふさわしいと思われるサブタイトルを二十字以内で書きなさい。

問三 スマホ依存について、どのような意見を持ちましたか。スマホ依存の問題点や課題を明らかにし、あなたの考えを三百二十字以内で述べなさい。





一般推薦小論文および特別推薦小論文問題一

・アンデシュ・ハンセン著／久山葉子訳

『スマホ脳』新潮社 二〇二〇年初版 二〇二一年十七刷 一部改変して出題  
問一

【出題意図】

・受験者の読解力および要約力を検査する。

【解答のポイント】

形式上のポイント

- ・理由を説明せよという設問の要求に対して「くから」という形式で説明できているか。
- ・記述した文章の論理が明確であるか。
- ・読み手に分かりやすい、伝わりやすい表現ができているか。

内容上のポイント

- ・不確かな結果への偏愛というキーワードを適切に用いることができているか。
- ・不確かな結果への偏愛について、筆者がその理由を記述している内容、すなわち、人間の進化の過程として長らく存在している脳内物質がドーパミンであること、そして現代社会の利器であるスマートフォンが期待や過程（くかもしれない）を通じてドーパミンの量を強化することから、人間がスマートフォン依存をなくすことは困難である、という説明ができているか。

【解答例】

人間の生存を目的とする脳の伝達物質の一つがドーパミンである。ドーパミンは、不確かな結果への偏愛をもたらす。スマートフォンは、不確かな結果への偏愛の傾向を強化するか、人間がスマートフォン依存をなくすことは困難である。（百八文字）

問二

【出題意図】

- ・受験者の読解力および要約力を検査する。

【解答のポイント】

形式上のポイント

- ・記述した文章全体のイメージができているか。
- ・読み手に分かりやすい・伝わりやすい表現ができているか。

### 内容上のポイント

- ・長きに渡って存続する人類の脳の特性が、スマートフォンをはじめとするデジタル社会に適応していないためスマートフォン依存になっていることを、端的に表現できているか。

### 【解答例】

スマートフォンは私達の最新の依存症 (十七文字)

問三

### 【出題意図】

- ・受験者の読解力および要約力を検査する。

### 【解答のポイント】

#### 形式上のポイント

- ・問題の提示、背景の説明、対策の提示、という3つの構造による記述がなされているか。
- ・読み手に分かりやすい・伝わりやすい表現ができているか。

#### 内容上のポイント

- ・本問題は、スマートフォンの依存について意見を問うている。スマートフォン使用の賛否を問うているわけではなく、賛否両論の根拠を整理できているか。
- ・近年スマートフォンに代表されるデジタル化は多くの利便性をもたらしていることを認めた上で、問題があることを論じられているか(問題提示。後述 部)。
- ・スマートフォン依存になる理由を人間関係の在り方や脳の特性に関する内容から説明できているか(背景の説明。後述 部)。
- ・依存症にならないための予防策を記述する一方で、スマートフォン依存の危険を知る必要性を適切に説明できているか(対策の提示。後述 部)。

### 【解答例】

近年、スマートフォンは私達の生活に利便性をもたらしている。しかしながら、スマートフォンの過度な利用が、脳をハッキングすることで、学力低下や生活習慣や健康に関する問題を引き起こしている。こうした背景として、人間関係を構築する場がリアル空間から仮想空間へ移行したことで依存を強めていると考えられる。また、スマートフォンの技術が日々向上して、利用者がルールやマナーに追いついていない課題もある。スマートフォン依存にならないために、運動や睡眠の確保や、使用時間や場所等家族内でのルールが必要である。また、スマートフォン依存によるリスクや弊害を広める必要がある。スマートフォンの利便性を活かしつつ、リスクを回避する知識をもち、健全な使用が求められる。(三二〇文字)